

沖縄県新型コロナウイルス感染症発生動向報告

沖縄県疫学・統計解析委員会

【現状】

新規陽性者数・実効再生産数

沖縄県における先週（8月29日-9月4日）の新規陽性者数は13,053人（先々週20,513人）でした。沖縄本島（周辺離島を含む）における先週の実効再生産数(R)^{*1}は0.74 [最小値0.49-最大値0.93]、このうち那覇市は0.76 [0.54-0.96]でした。また、宮古は0.68 [0.22-1.03]、八重山は0.79 [0.32-1.05]でした（図1）。全県的に減少が続いています。

*1：最終日を除いた直近7日間における日別推定値（平均値）の平均値。[]内は、直近7日間における日別推定値（平均値）の範囲（最小値から最大値）を表す。

保健所管区別

保健所管轄区域別（7日間合計）では、北部995人（先々週1,575人）、中部3,802人（先々週6,138人）、那覇市2,860人（先々週4,288人）、南部4,409人（先々週6,853人）、宮古433人（先々週740人）、八重山469人（先々週678人）でした（図2）。感染を確認した県外からの渡航者（7日間合計）は79人（先々週226人）でした（図3）。

年齢階級別推移

年齢階級別では、10歳未満2,121人（16%）と最多であり、30代1,983人（15%）、40代1,898人（15%）と続きます（図4）。すべての年代で減少しており、先週時点では、学校再開の影響は明らかではありません（図5）。

入院患者数推移

入院患者数は先週末時点で653人（8月28日時点772人）であり、このうち酸素投与など中等症患者は316人（8月28日時点351人）と減少が続いています。一方、気管挿管など重症患者は13人（8月28日時点12人）と増えています（図6）。

沖縄県内において救急受入を担っている21の重点医療機関において、先週末時点で医師33人と看護師189人が新型コロナウイルスに感染して休職しています。濃厚接触者などその他の理由による休職者も含めると、医師40人と看護師299人が働くことができなくなっています（図7）。いずれも地域流行の減退に伴って減少しています。

社会福祉施設

高齢者施設や障がい者施設など社会福祉施設で療養している陽性者は、先週末時点で92施設619人（8月28日時点835人）と減少に転じています（図8）。一方、病院外で酸素投与が行われている療養者数は41人（8月28日時点38人）と増加しています。入院が必要な感染者が入院できない状況が続いています（図9）。

高齢者施設における早期検査

2022年4月1日から6月30日までの高齢者施設における発生事例（通所施設は除く）のうち、メールによる質問に対して回答のあった94施設145件について、初発例および初発例への検査理由、職員および入居者の最終的な感染者数の平均値を算出しました（図10）。

施設内における初発例は、職員108件（74.5%）、

入居者22件(20.0%)でした。初発例に対して検査を実施した理由は、職員では、症状を認めた54件(50.0%)、接触歴を認めた20件(18.5%)、定期スクリーニング検査21件(19.4%)、その他13件(12.0%)でした。入居者では、症状を認めた22件(75.9%)、接触歴を認めた3件(10.3%)、その他4件(13.8%)でした。

初発例および検査理由別にみる最終的な感染者数(平均)は、職員の症状あり6.7人、職員の接触歴あり1.3人、定期スクリーニング検査5.6人、入居者の症状あり6.7人、入居者の接触歴あり1.3人でした。

職員の感染を早期発見することで、集団感染の規模を小さくできる可能性があり、とくに接触歴

を確認した段階で診断できれば、入居者が守られる可能性が高まります。定期スクリーニングにより職員の感染が判明した段階では、すでに感染が広がっている可能性があります。ただし、スクリーニングで職員の感染が指摘されることで、さらなる拡大を予防しているものとも考えられます。

一方、入居者の感染を初発として確認した場合には、すでに大規模な感染拡大が始まっている可能性があります。迅速にフロア単位でのPCRによる一斉検査を実施する必要があります。デイサービス、一時帰宅、あるいは医療機関からの再入所などでは、接触歴について見逃さず、早期にPCR検査を実施することで集団感染の規模を縮小することが期待できます。

【今後の見通しと対策】

沖縄県では、急速に新規陽性者数が減少していますが、先週は台風の影響が続いたため、検査所が閉まっていたり、受診控えが生じたりしていた可能性があります。

今週の新規陽性者数は9,000-12,000人へと減少すると見込みますが、終盤を迎える選挙戦の影響について注意する必要があります。一方、入院患者数については下げ止まっており、いまだ院内感染や施設内感染が散発的に発生していることの影響が考えられます。今週末までに550-600人となると見込まれ、改善傾向にはあるものの医療ひっ迫の状態は続くと考えられます(図11)。

秋に向けて、イベントの企画が増えてくるものと考えられますが、人が密集するもの、参加者がマスクを外すものについては、感染対策について専門家のアドバイスを受けるようにしてください。とくに、屋内での企画については、換気を徹底することが必要です。

なお、沖縄県内におけるインフルエンザの定点報告数は、8月22日の週には22人(北部3人、中部12人、那覇市1人、南部4人、宮古2人、八重山0人)と横ばいで推移しています。ただし、

高齢者施設における集団感染が認められるなど、報告対象でない定点医療機関以外での発生も認めており、徐々に感染が拡大している可能性があります。

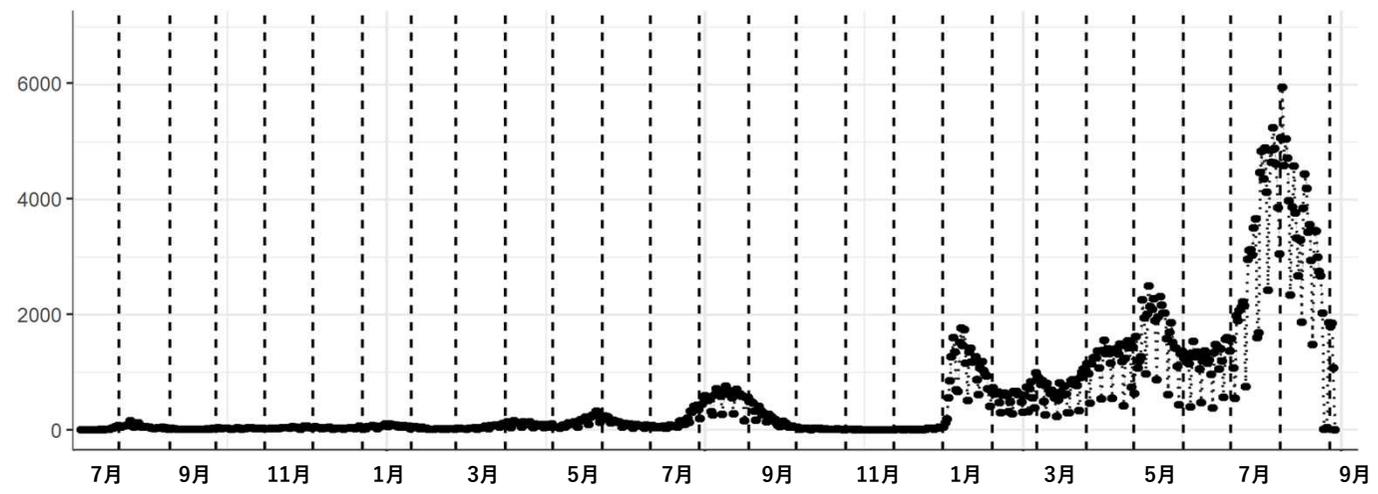
高齢者施設においては、新型コロナを否定することで安心せず、職員または入居者に発熱や咳などの症状を認めるときは、抗原検査によりインフルエンザの確認も行うようにしてください。なお、新型コロナの隔離期間は、発症後10日間が経過し、かつ解熱剤を使用せずに発熱などの症状が消失して72時間が経過するまでですが、インフルエンザは発症後5日間が経過し、かつ解熱剤を使用せずに発熱などの症状が消失して48時間が経過するまでとなります。対応に悩まれるようでしたら、いつでも専門家にご相談いただければと思います。

図1 陽性者数の推移と実効再生産数（北部、中部、南部）

陽性者数（確定日）

日あたり観察値

北部、中部、南部医療圏
(宮古・八重山を除く)



実効再生産数

直近7日間平均値

北部、中部、南部医療圏
(宮古・八重山を除く)

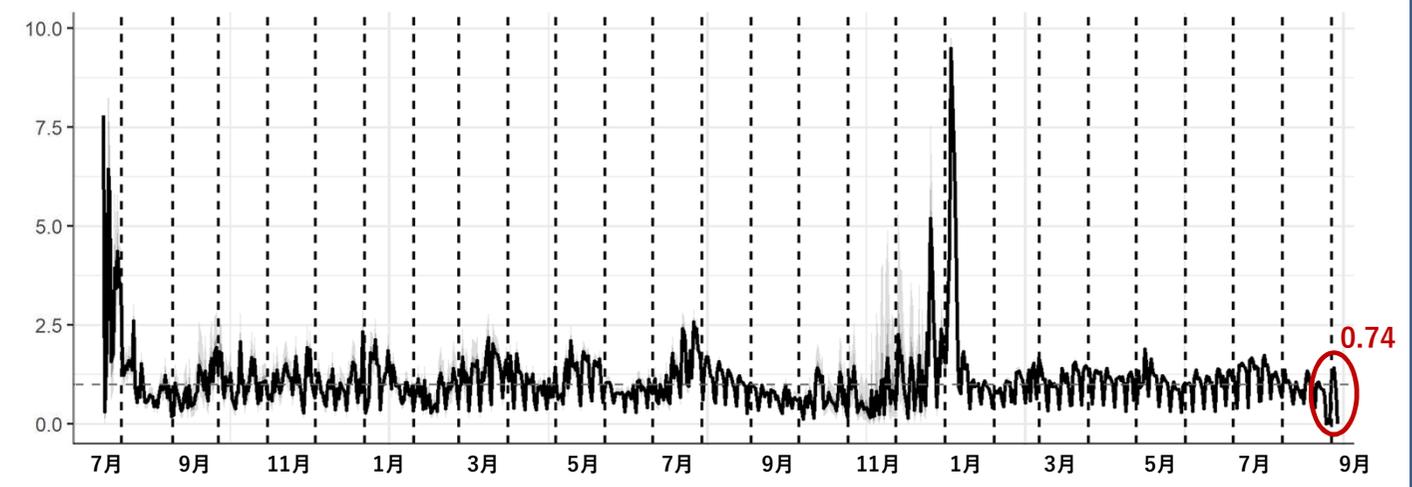


図2 保健所管区別に見る新規陽性者数の推移（沖縄県）

人口10万人あたり7日間合計

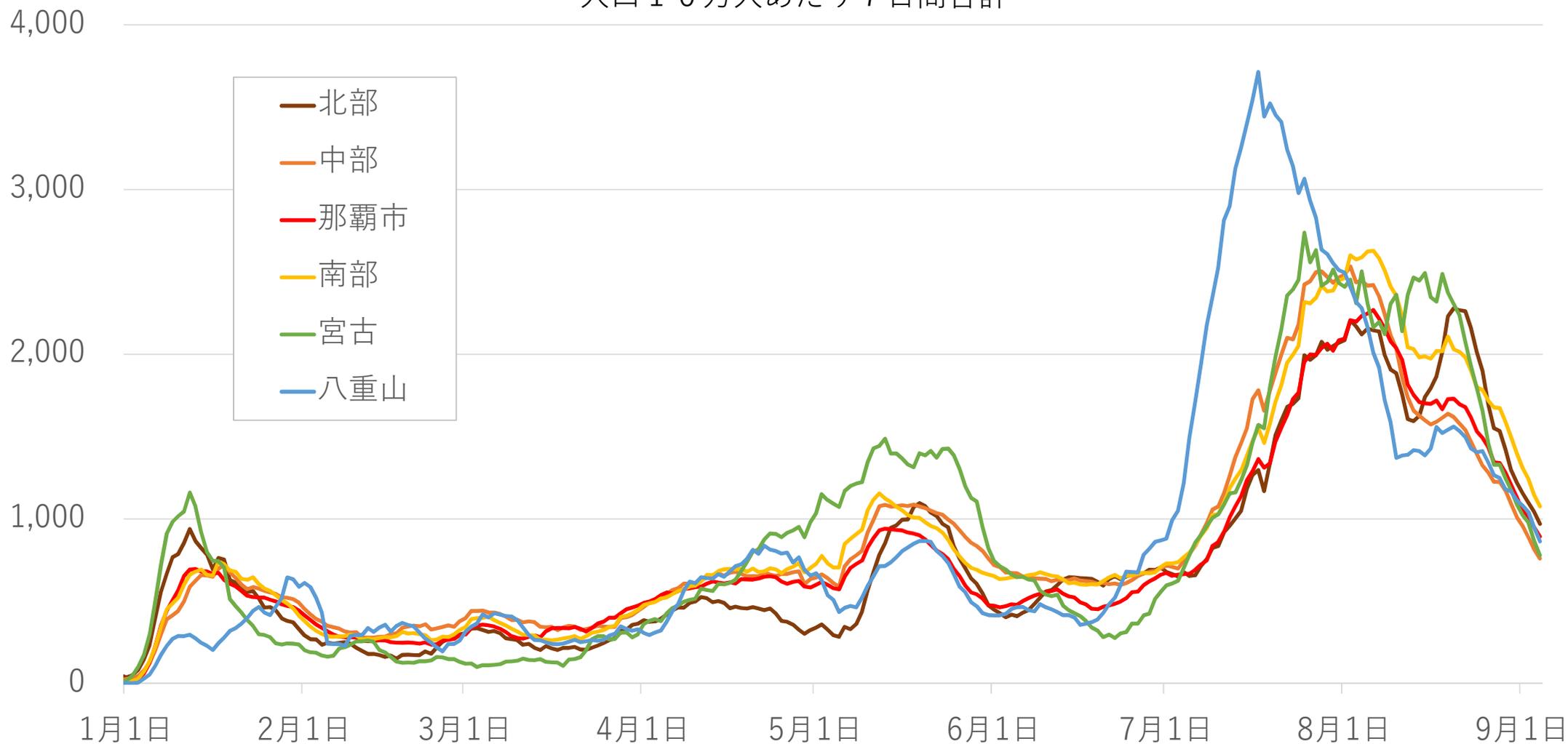


図3 県外からの渡航者における新規陽性者数の推移（沖縄県）



図4 性年齢階級別に見る陽性者数 (8月29日~9月4日)

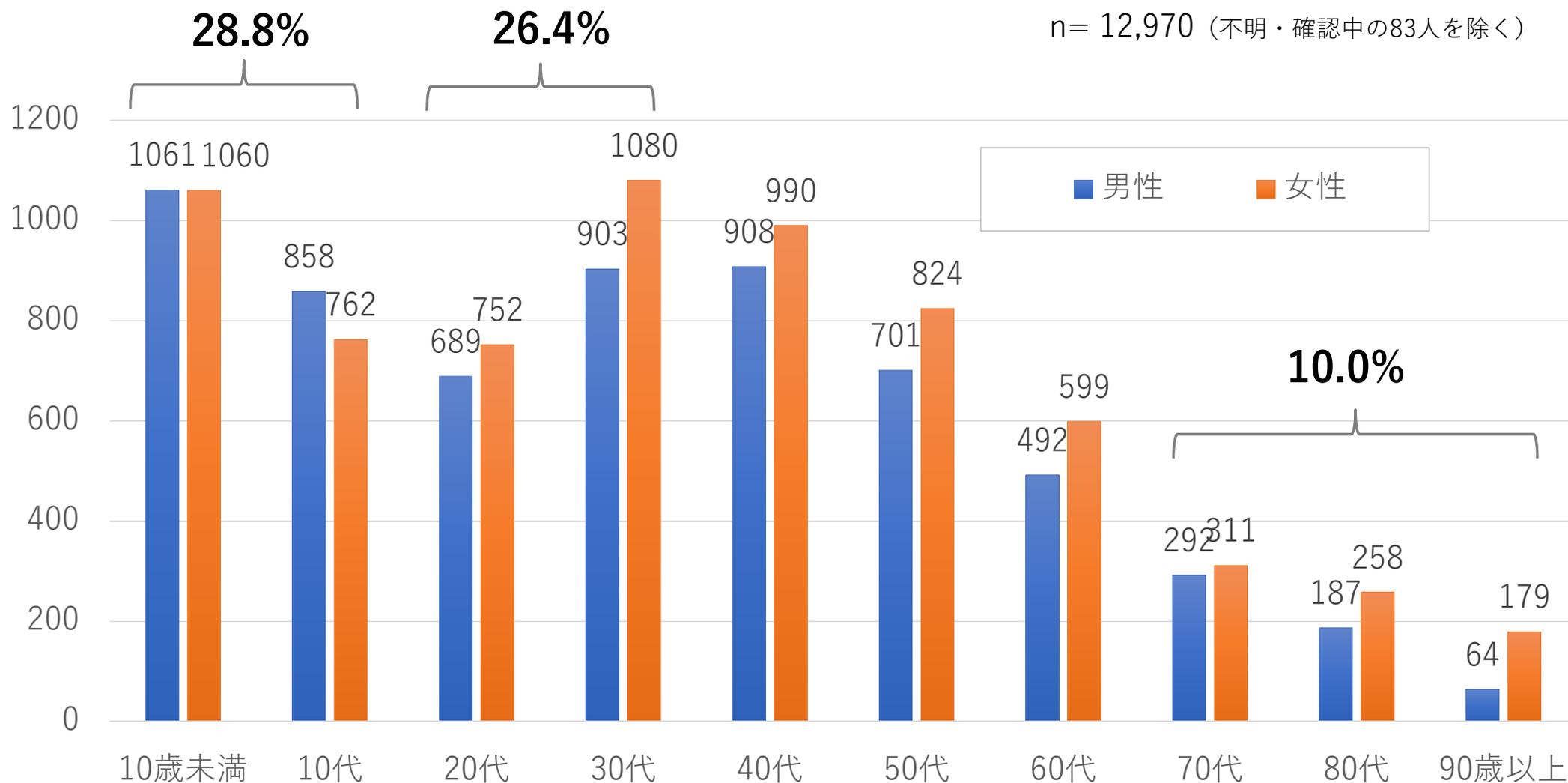


図6 新規陽性者数と重症度別入院患者数の推移

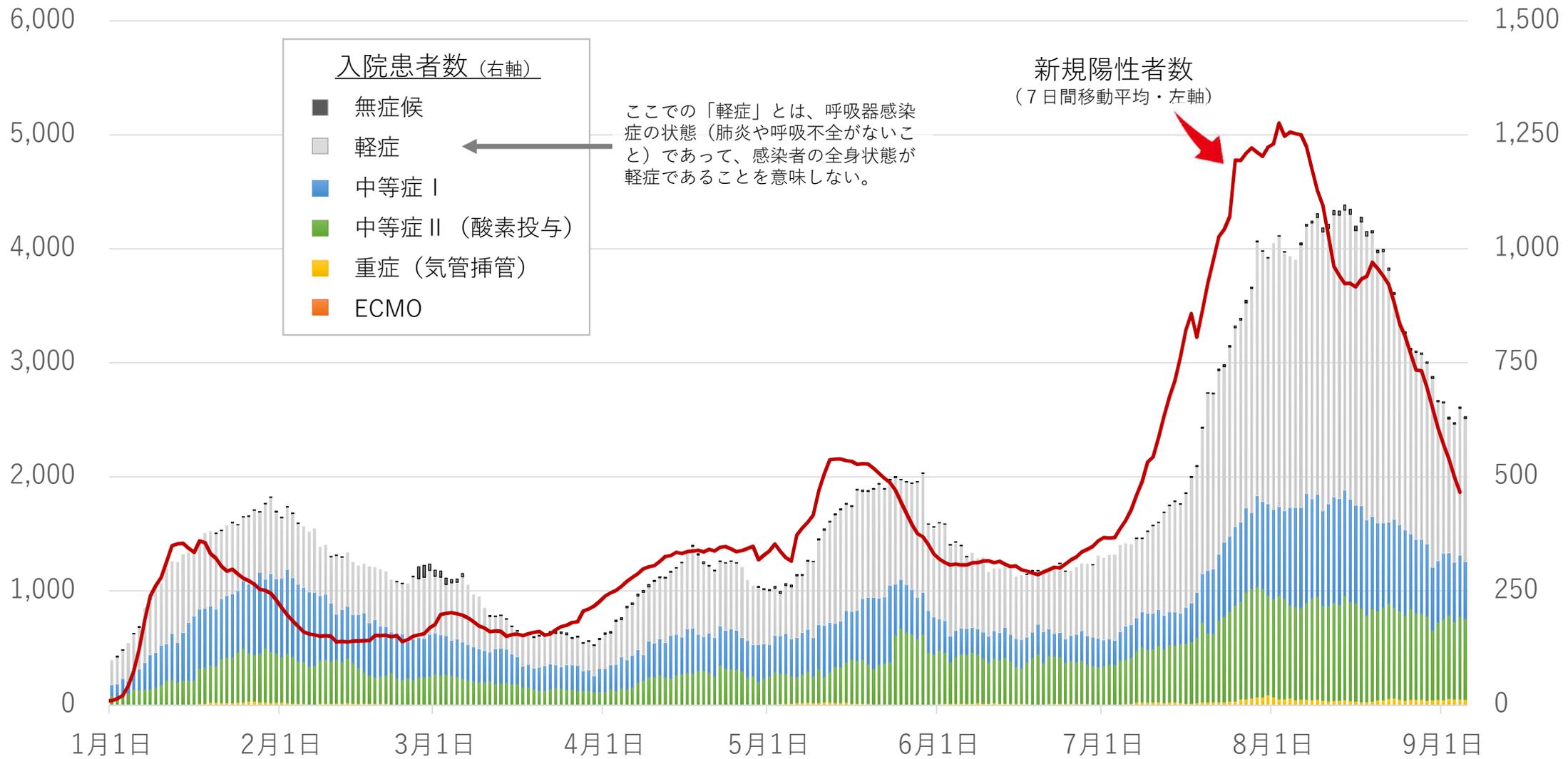
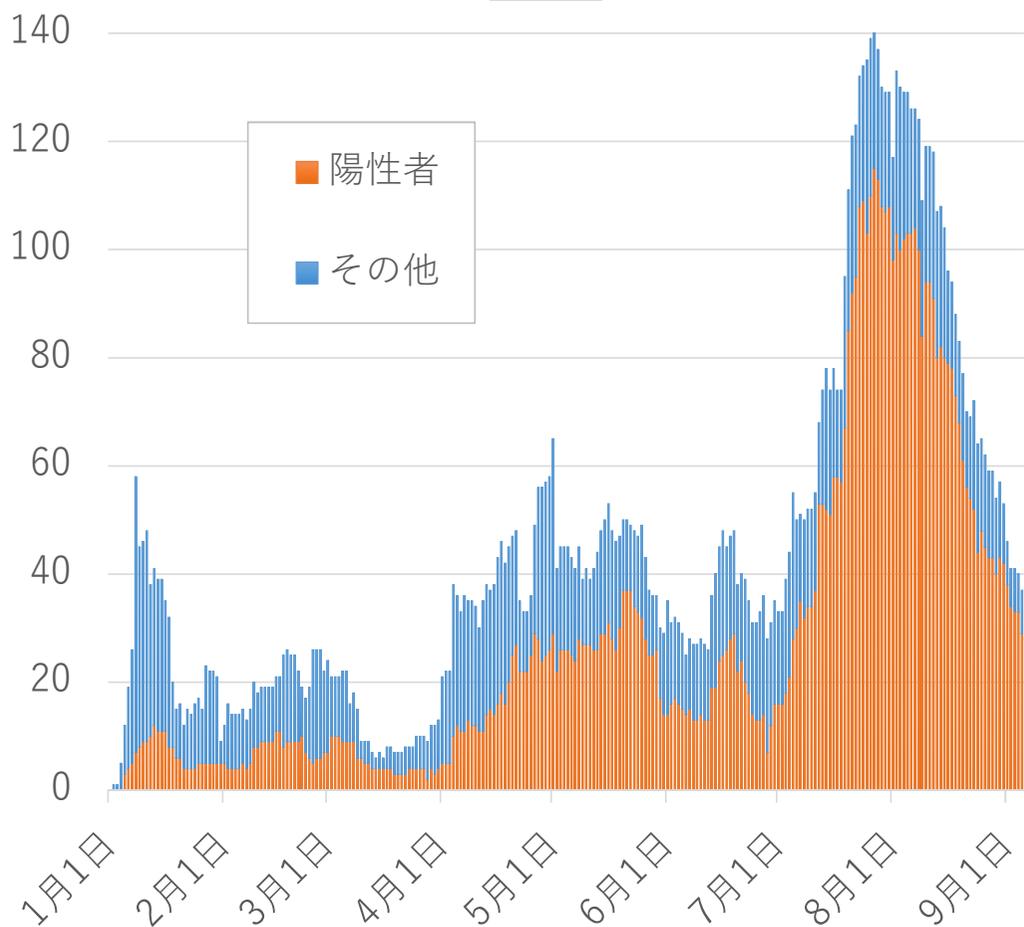


図7 重点医療機関（21病院）における医師、看護師の休職数

医師



看護師

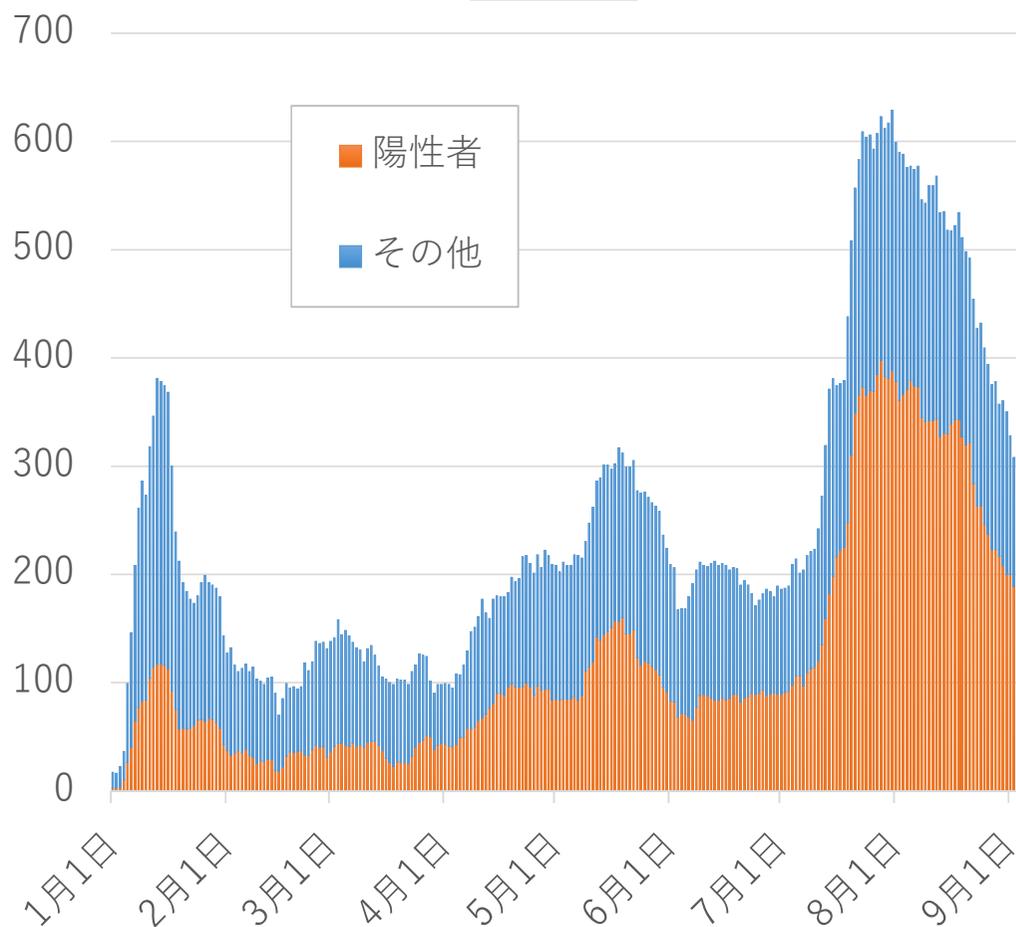


図 8 社会福祉施設における施設内療養者数

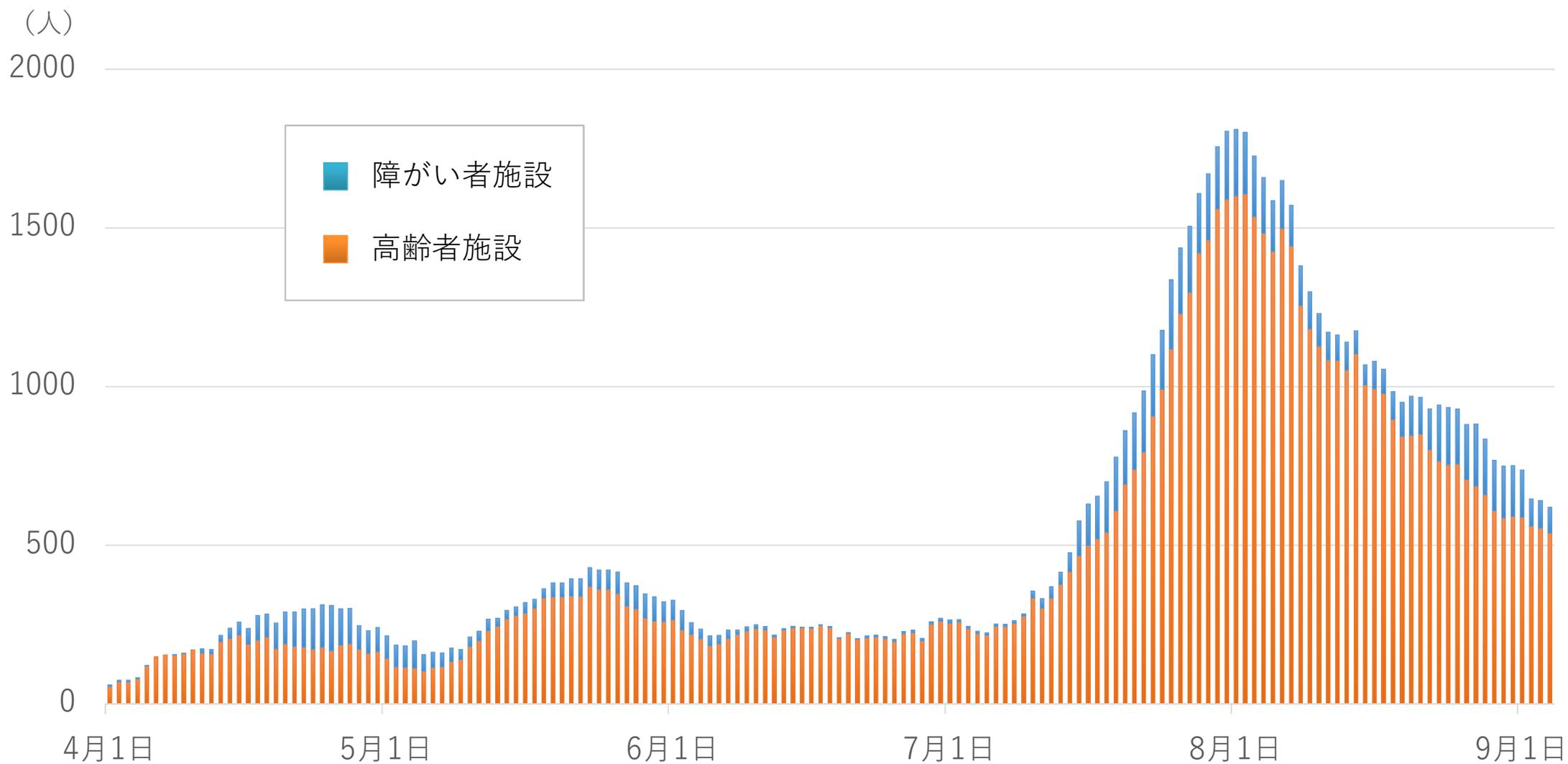


図9 病院外において酸素投与が行われている療養者数

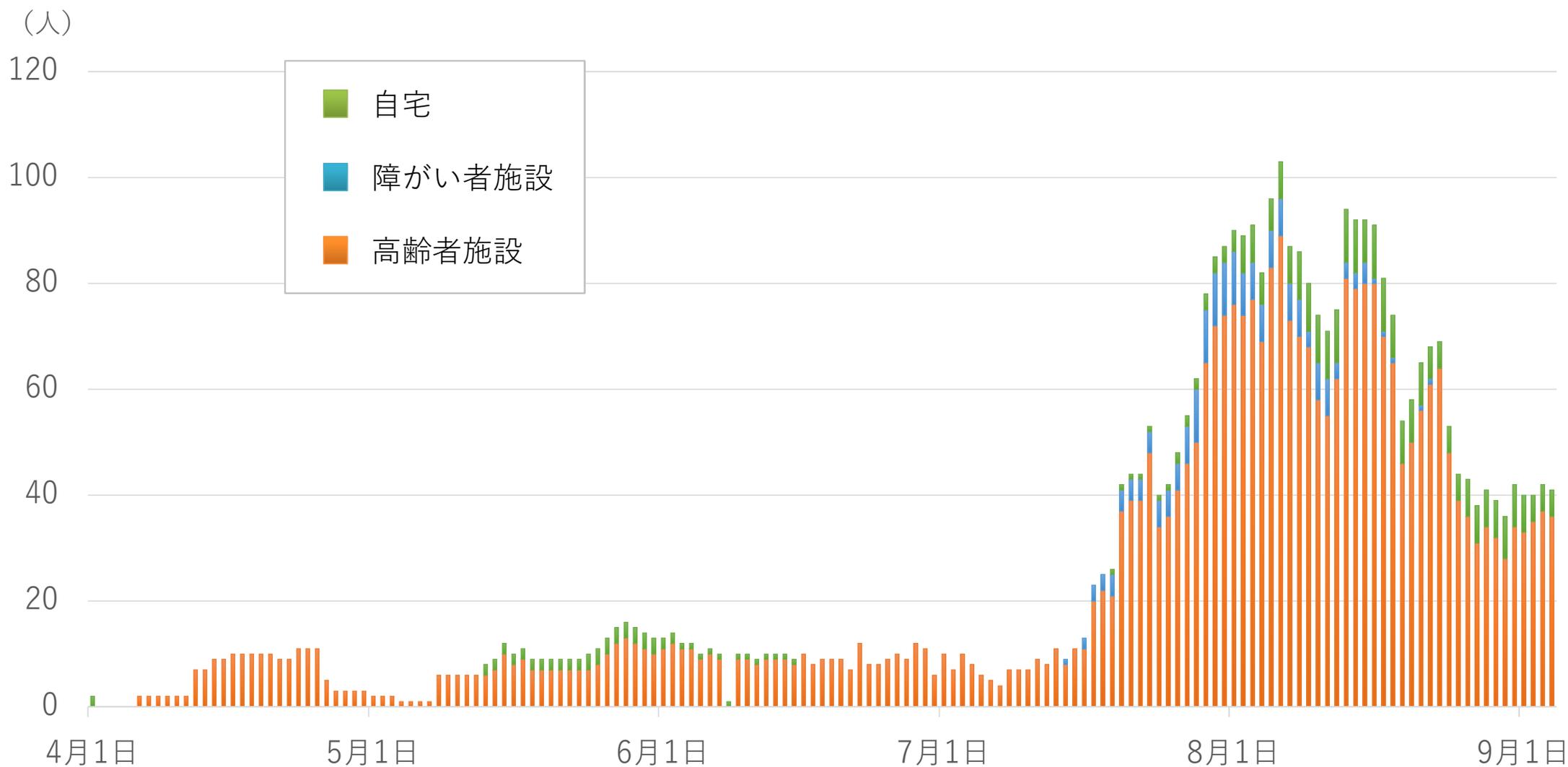
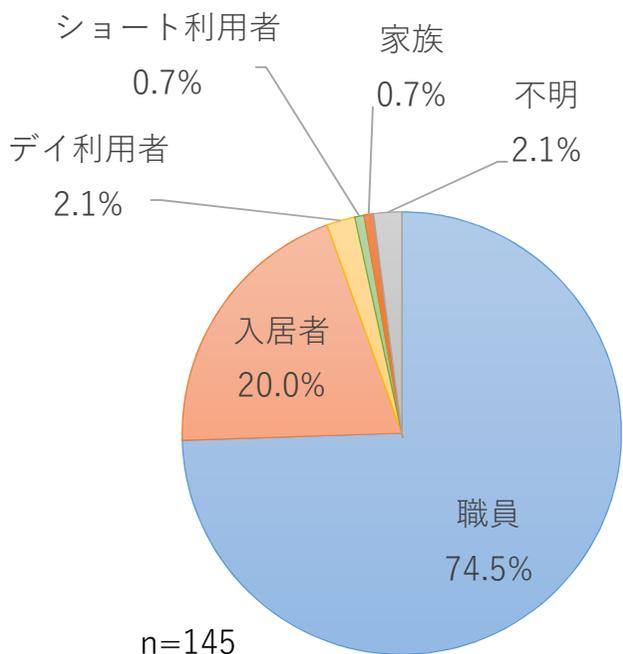


図10 初発例に対する検査理由と最終的な感染者数

2022年4月1日から6月30日までに最初の感染者を確認した施設内発生事例のうち、メールによる質問に対して回答のあった94施設145件について、初発例および初発例への検査理由、職員および入居者の最終的な感染者数の平均値を算出した。

初発例



初発例への検査理由

(職員)
n=108



(入居者)
n=29



最終的な感染者数 (平均)

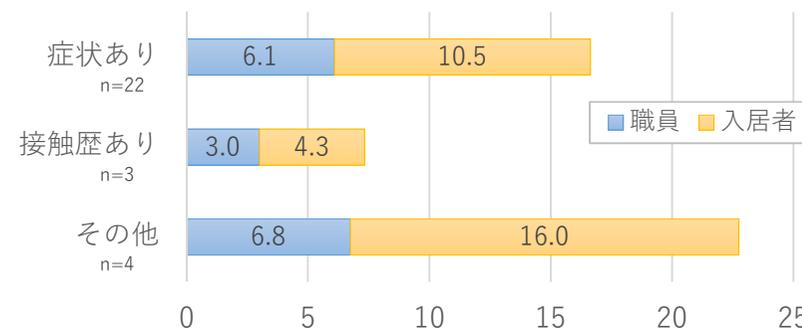


図11 今後1週間（9月5日-11日）の発生見込み数

分析データ： 新規陽性者数、年齢群別・医療県別入院率； 沖縄県
 年齢群別重症化率； 厚生労働省
 平均期間（入院・重症）； HER-SYS

	新規陽性者数（確定日）			入院患者数（9月11日時点）		
	0.5	1.0	1.5	0.5	1.0	1.5
実効再生産数	0.5	1.0	1.5	0.5	1.0	1.5
沖縄本島	6,377	12,842	25,861	511	617	790
宮古圏域	238	479	965	10	13	18
八重山圏域	254	511	1,029	13	16	22
合計	6,869	13,832	27,854	534	646	830